

星の話 カシオペヤ座

2020.03.28 星のお爺様

カシオペヤ座は、おおぐま座の北斗七星と共によく知られている星座で、北天でひときわ目立つ形をしています。惜しまれながら引退したJRのカシオペア号[※]も北へ向かう列車としてこの星座の名前を付けていますね。注：一般の天文書はカシオペヤ、JRはカシオペアを使っています。



カシオペヤ座とオーロラ アラスカ フェアバンクスにて撮影

ギリシア神話の中では、カシオペヤは古代エチオピア王ケフェウスの妻で、アンドロメダ姫の母として登場しています。

日本でのカシオペヤ座もアルファベットのWを構成する星を捉えて昔から各地でさまざまな名前がつけられています。

その数から、

ゴヨセボシ 茨城県坂東市岩井地域

イツツボシ 静岡県、埼玉県、神奈川県、ほか

形状から

イカリボシ、ヤマガタボシ、ユミボシ、等々。

また、カシオペヤ座は、北斗七星などと同じように地平線下に沈むことなく北極星を回る、いわゆる周極星です。

北極星との位置関係は、Wの端の2辺を延長した直線の交点から、Wの字の真中の星の方向へ5倍ほど延長すると北極星に至ります。

比較的明るい星座ですので、晴れた夜であれば、首都圏のビルの上にWが輝いているかもしれません。探してみてくださいはいかがでしょうか。



ギリシア神話のカシオペヤ

